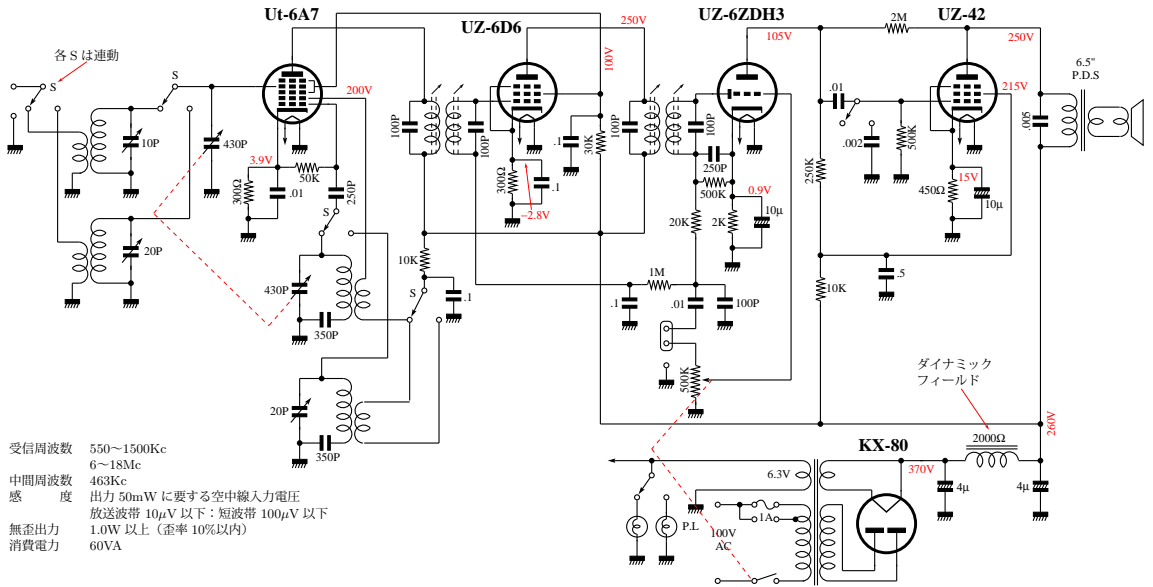


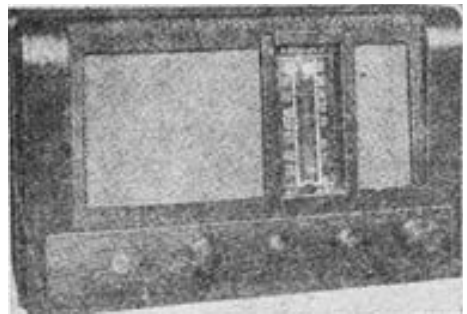
ナナオラ NH-5075 A 5球2バンドスーパー



第1図 回路図

通信省型式試験合格の表題の受信機につき読者の御参考に以下概説します。

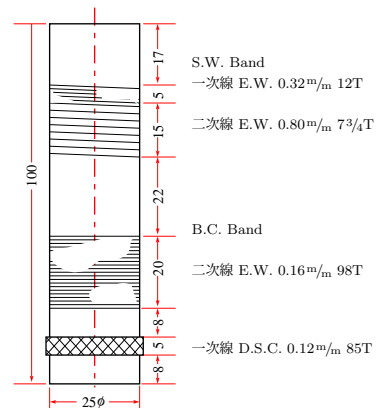
本2バンドスーパーは5球セットと放送波帯は勿論短波帯に於て特に感度及選択度よくAVC回路を有しスピーカーは6.5吋フィールド式ダイナミックを使用しています。又レコード演奏のためP.U端子を別に設けてあります。



第1図は本機回路図で、回路そのものは特別なものではありませんが若干特長のある点をあげますと

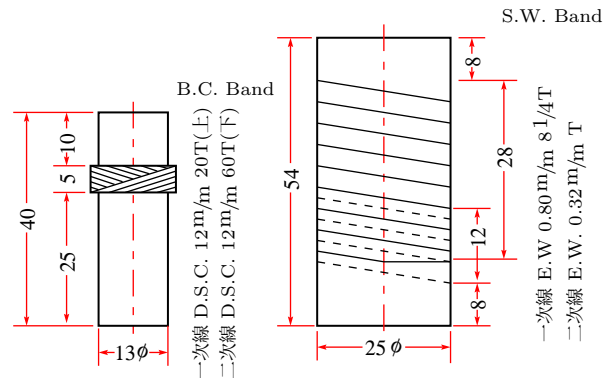
(1) 周波数切替はロータリースイッチを用いて放送波帯コイルと短波帯コイルとを切替えると同時に目盛板の表示灯を切替えてその指示をします。

(2) 空中線回路の短波及放送波のアンテナコイル及同調コイルは第2図に示すようにフェノールレジンの同一ボビンに巻き、短波バンドはスペース巻きとし、放送バンドは周波数特性を出来るだけ一様にするため高インピーダンス型とした。



第2図 アンテナコイル

(3) 発振コイルは第3, 第4図のものを^{それぞれ}用い短波バンド及放送波バンドは夫々別個のフェノールレジン製ボビンにまき, 放送用のものはオキサイドコアをねじ込むようにした. 発振回路はコンバータ管6A7の発振グリッドに接続し短波バンドの感度をあげるため発振回路の2次側をカソードに置かず発振プレート側におき回路定数と部品配置に充分考慮を払った結果異常発振引込現象を防止し得た. 又以上によりコンバータ管6A7の品質の不均一及発振不良をも緩和するに役立つ例えば6A7を20個中出力50mWに対し入力電圧115 μ Vのものを10%として80%以上のものは充分使用にたえ得ることが判明した.



第3図 発振コイル

第4図 発振コイル

振引込現象を防止し得た. 又以上によりコンバータ管6A7の品質の不均一及発振不良をも緩和するに役立つ例えば6A7を20個中出力50mWに対し入力電圧115 μ Vのものを10%として80%以上のものは充分使用にたえ得ることが判明した.

(青山嶺次)

PDF化にあたって

本PDFは,

『無線と実験』1949年2月号
を元に作成したものである。

PDF化にあたって, 旧漢字は新漢字に, 仮名遣いは新仮名遣いに変更した。漢字の一部には振り仮名をつけた。

ラジオ関係の古典的な書籍及び雑誌のいくつかを

ラジオ温故知新(<http://fomalhaut.web.infoseek.co.jp/index.html>)

に,

ラジオの回路図を

ラジオ回路図博物館(<http://fomalhaut.web.infoseek.co.jp/radio/radio-circuit.html>)

に収録してある。参考にしてほしい。